

ふくろう販売の各伝票で使用する種別(商品種別)について説明します。

■ 販売・レンタル種別とは

ふくろう販売では伝票入力時の明細の種別によって販売やレンタルなどを区別しており、重要な選択項目となります。

- ・種別ごとに入力できる項目や金額の計算方法が自動で切り替わります。
- ・種別ごとに他処理でレンタルかレンタル以外かの判定がされ、処理できる内容が異なります。

明細情報															
削除	伝区 出荷	商品コード 品名	単品管理No		倉庫	種別 返却予定日	記区 返区	月数 日数	保証	切替日単価	原単価	受注原価	基本料原単	基本料原価	補償料原単
			数量	単位							単価	受注金額	基本料単価	基本料金額	補償料単価
1	<input type="checkbox"/> 掛受注 未納	I000248 パイプカッター			本社倉庫	日極 2018/05/16	店頭	0	20	0.00	0.00	2,000	0.00	0	0.00
2	<input type="checkbox"/> 掛受注 未納	K000224 水タンク 1000L			本社倉庫	月極切替 2018/05/16	店頭	0	0	600.00	6,000.00	4,800	0.00	0	0.00
3	<input type="checkbox"/> 掛受注 未納	I000176 電源用キャブタイプ(38方) 30M			本社倉庫	一括 2018/05/16	店頭	0	0	0.00	3,000.00	3,000	0.00	0	0.00

◆ 種別の登録、設定

明細で表示されている種別はマスタ管理タブの「商品種別登録」メニューで設定されている種別名となります。

実際の制御はこのマスタで設定されている「商品種別分類」で決定されます。

種別はユーザ自由に追加、削除できますが、システムで初期で用意されている種別は削除できません。名称等の変更のみ可となっています。

商品種別分類ごとの制御内容は次頁で説明します。操作方法詳細は操作マニュアルを参照してください。

商品種別登録						
削除	商品種別分類	内訳区分	コード	名称	略名	表示順
1	販売	販売	001	販売	販売	7 使
2	販売	運賃	002	運賃	運賃	8 使
3	販売	修理	003	修理	修理	9 使
4	販売	燃料	004	燃料	燃料	10 使
5	販売	その他	005	作業	作業	255 使
6	販売	販売	008	値引	値引	255 使
7	減損	販売	051	減損	減損	11 使
8	一括	レ例	101	一括	一括	5 使
9	日極一括	レ例	104	日極一括	日極一括	6 使
10	日極	レ例	111	日極	日極	1 使
11	月極	レ例	121	月極	月極	2 使
12	月極日割	レ例	141	月極日割	月極日割	3 使
13	月極切替	レ例	151	月極切替	月極切替	4 使

◆ 商品種別分類と制御内容

種別	商品種別分類	概要	受注必須	基本料、補償料入力可	採用(表示)単価	金額計算	請求	保証日数指定可	休止日指定可※1	会社決算対象※3
レンタル系	日極	金額は日単価で計算をします。 締日単位で、売上傳票が作成されます	○	○	日極単価	数量×日数×単価	返却まで 月次請求	○ 0~99	○	○ 休止日考慮あり
	月極	日数に関係なく月額で請求します。 締日単位で、売上傳票が作成されます	○	○	月極単価	数量×月数×単価	返却まで 月次請求	×	×	○
	月極日割	端数日数の場合は月額の日割計算で金額計算します。 (端数日数は(月)単価÷30×日数で計算) 1ヶ月全て貸出の場合は月額で請求します。 締日単位で、売上傳票が作成されます ※詳細は次頁以降で説明します。	○	○	日割単価  月極単価	日割: 数量×日数×単価÷30  月極: 数量×月数×単価	返却まで 月次請求	○ 0~27、 30 ※4	○ ※2	○ 休止日考慮なし
	月極切替	切替日数(単価÷切替日単価)未満の貸出期間 では、日数×切替日単価を請求します。 切替日数を超えた貸出では、月単価で請求します。 (端数日数は(月)単価÷30×日数で計算) 締日単位で、売上傳票が作成されます ※詳細は次頁以降で説明します。	○	○	比較日単価  月極単価	貸出日数<切替日数: 数量×日数 ×切替日単価  貸出日数≥切替日数: 数量×日数×単価÷30	返却まで 月次請求	×	○	○ 休止日考慮なし
	一括	締日に関係なく、初月1回のみ請求します。 締日単位で、売上傳票が作成されますが、 返却するまで次月以降の売上金額は0円で処理されます。	○	○	一括単価	数量×単価	一括請求	×	×	×
	日極一括	締日に関係なく、初月1回のみ請求します。 返却予定日までの日単価で金額計算します。 締日単位で、売上傳票が作成されますが、 返却するまで次月以降の売上金額は0円で処理されます。	○	○	日極単価	数量×日数×単価	一括請求	×	×	×
	日極売上	見積入力、受注入力では指定できません。 売上入力でのみ指定できます。日単価で計算します。 在庫増減はしません。貸出の予定は計算されません。 入力した売上傳票でのみ有効。継続伝票は作成されません	○	○	日極単価	数量×日数×単価	一回のみ	×	○	×
販売系	販売	様々な販売品(運賃や燃料代など含む)で使用します。 在庫管理品は入荷、出荷で帳簿在庫が変動します。	×	×	販売単価	数量×単価	一括請求	×	×	×
	減失	レンタル品の減失分の請求で使用します。 自動では計上されません。売上入力から新規入力します。	×	×	減失単価	数量×単価	一括請求	×	×	×

◆ 商品種別分類と制御内容

- ※1 受注伝票で保証日数を指定している場合は、休止日を設定できません。
- ※2 切替日や応当日(開始日から1ヶ月後)より前に休止日を設定した場合、その日数分、切替日、応当日が後ろにずれます。  
例) 5/11開始日 日単価 100円、月単価 1000円 (10日切替) の場合、切替日=5/20、応当日=6/10ですが、5/20より前に休止1日設定すると5/21が切替日、6/11が応当日になります。
- ※3 会社決算対応とは、会社決算日で「会社決算用の売上傳票を計上する/しない」を示しています。  
対応する場合、会社決算日と締日が異なる得意先の(会社決算日時点で)未返却のレンタルに対し、「開始日(または前月締日)～会社決算日」の売上傳票が作成されます。  
会社決算の売上傳票が作成される場合、同時に打ち消し用の翌日にマイナスの売上額が計上されます。  
これら会社決算用の調整伝票は請求額には反映されません。
- ※4 月極日割で保証日数=30を設定した場合、保証期間は開始日の応当日(1か月後の前日)までとなります。  
保証期間内に返却された場合は1ヶ月分の月額を請求します。  
得意先マスタの「補償請求区分」が入庫時の場合、請求締切処理では実日数分が請求されます。翌月保証期間内に返却された場合は、月額から前月請求分を差し引いた金額が請求されます。

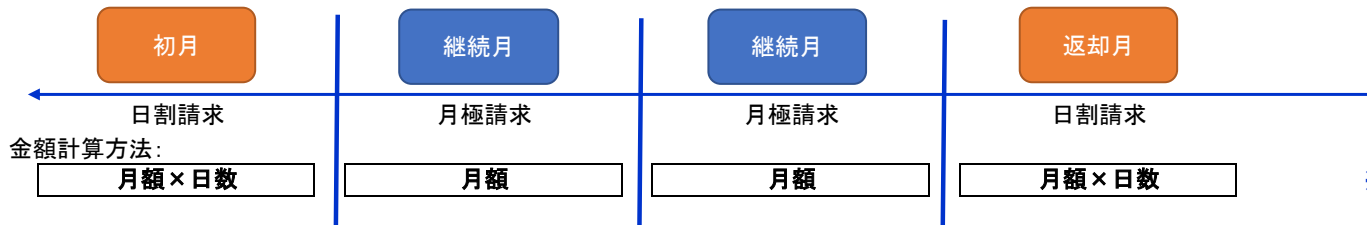
その他補足

- ※レンタル系は、出荷で営業在庫(貸出可能数)が減少し、返却で増加します。
- ※販売系は、出荷で帳簿在庫が減少します。

◆ 月極日割処理の補足

・ 請求額計算方法

月極日割処理は、初月と返却月が日割請求、継続月が月極請求となる種別です。



※ 月額請求の月に休日が設定されている場合は 月額単価 ÷ 30 × 日数 の計算になります。

・ 日割単価計算方法

日割単価は何月であっても 月額単価 ÷ 30 で計算します。

単価計算時の端数は、システム管理タブの「運用設定」メニューの「日割単価端数計算方法」の設定で決定します。

- ・ 単価算出時 ... 月額単価 ÷ 30 の日割単価計算時に端数を丸めてから 数量 × 日数 × 単価で金額計算します。
  - ・ 金額算出時 ... 数量 × 日数 × 月額単価 ÷ 30 の計算結果の端数を丸めます。
- ※いずれの場合も端数処理(切上げ/切捨て/四捨五入)は得意先登録の金額端数区分が採用されます。

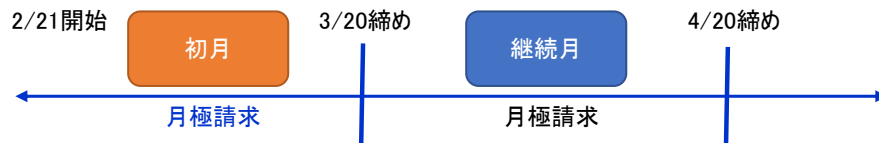
◇ 運用設定の項目

日割単価端数計算方法	単価算出時
	単価算出時
	金額算出時

・ 初月と返却月の月極計算

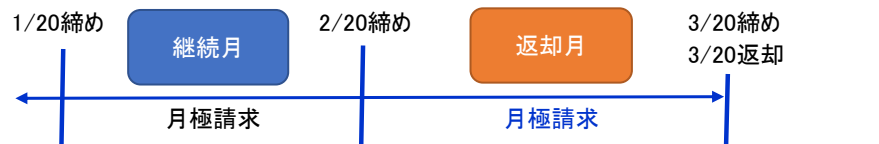
初月または返却月であっても、レンタル期間が1ヶ月となる場合は月極に切換えて計算されます。

【ケース1】 20日締の得意先の場合、レンタル開始日が2月21日で継続された場合の初月請求 ... 月極請求



初月日数は28日間となりますが、1ヶ月レンタルとなるため月極となります。

【ケース2】 20日締の得意先の場合、継続月翌月の返却月の返却日が3月20日だった場合の返却月請求 ... 月極請求



返却月日数は28日間となりますが、1ヶ月レンタルとなるため月極となります。

【ケース3】 20日締の得意先の場合、レンタル開始日が3月22日で継続された場合の初月請求 ... 日割請求



初月日数は30日間となりますが、1ヶ月レンタルに満たないため日割となります。

◆ 月極切替処理の補足

・ 請求額計算方法

(開始日からの)貸出日数 < 切替日数 → 「切替日単価 × 日数 × 数量」

(開始日からの)貸出日数 ≥ 切替日数 → 「(月)単価 × 数量」

※切替日数は、単価 ÷ 切替日単価(端数切捨)で算出します。

※切替日～1ヶ月以内は月額請求。1ヶ月後以降は月極日割(月額 ÷ 30 × 日数)請求します。

※初月を日単価で請求を行っていた場合、2ヶ月目では開始日～終了日で請求額を計算し、初月の請求額を差引して売上金額を算出します。

例) 月末締め。日単価 = 100円、月単価 = 2000円 (切替日 = 20日)

切替日が初月のケース:

		初月請求	翌月請求	
5/3開始	5/17終了	@100 × 15日 = 1500円		
5/3開始	5/25終了	@2000円(月額)		切替日～1ヶ月以内は月額固定で請求されます。
5/3開始	6/10終了	@2000円(月額)	@2000円 ÷ 30 × 8日 = 533円	6/3～6/10(8日間)を月極日割請求します。

切替日が翌月のケース:

		初月請求	翌月請求	
5/23開始	6/6終了	@100 × 9日 = 900円	@100 × 6日 = 600円	翌月も日単価請求
5/23開始	6/20終了	@100 × 9日 = 900円	@2000 - 900 = 1100円	5/23～6/20(1ヶ月以内)のため月額。前月請求額を差し引き
5/23開始	6/30終了	@100 × 9日 = 900円	(@2000 + @2000 ÷ 30 × 8日) - 900 = 1633円	前月請求差し引きと、月極日割り計算 2000 + 533 - 900 = 1633円

・ 休止日について

切替日や応当日(開始日から1ヶ月後)より前に休止日を設定した場合、その日数分、切替日、応当日が後ろにずれます。

例) 5/11開始日 日単価 100円、月単価 1000円 (10日切替) の場合、切替日 = 5/20、応当日 = 6/10ですが、5/20より前に休止1日設定すると5/21が切替日、6/11が応当日になります。

◆ 保証日数について

- ・ 保証日数を登録すると、貸出期間が保証日数未満の場合でも保証日数分の金額を請求できます。
- ※ 保証日数を設定した場合、休止日の設定はできません。

■ 保証日数の登録、伝票入力

商品登録で、商品ごとの保証日数を登録します。  
 ここで登録した日数は伝票入力時に初期表示され訂正が可能です。

受注入力で保証日数を指定できる商品種別は「日極」「月極日割」「月極切替」のみです。  
 受注入力で商品を指定すると、商品マスタの保証日数が初期表示されます。  
 受注入力での変更も可能です。

削除	伝区		商品コード	単品管理No	倉庫		種別	配区	月数	日数	保証
	出荷	品名			数量	単位					
1	<input type="checkbox"/>	掛受注	I000251		本社倉庫		日極	店頭	0	0	15
		未納	トルクレンチ		1.0			店頭	0	0	
2	<input type="checkbox"/>	掛受注	I000199		本社倉庫		日極	店頭	0	0	0
		未納	ノミ(C8-30用)		1.0			店頭	0	0	

種別により指定できる日数は異なります。

日極： 0～99

月極日割： 0～27、または30

月極切替： 0～月極切替設定日数未満

(月極日割のみ)保証日数=30の場合、1ヶ月とみなします。

商品マスタで登録されている保証日数が受注伝票で選択した種別に合わない場合、0が表示されます。

■ 保証日数指定時の請求額

貸出と同じ請求期間に返却の場合、貸出日数＝稼働日数と考え、稼働日数が保証日数未満の場合、受注金額(売上金額)の算出には保証日数が適用されます。

貸出日数 > 保証日数	数量 × 単価 × 貸出日数
貸出日数 < 保証日数	数量 × 単価 × 保証日数

例1) 貸出日数＝2日、保証日数＝5日の場合、 金額＝数量 × 単価 × 保証日数

例2) 貸出日数＝7日、保証日数＝5日の場合、 金額＝数量 × 単価 × 貸出日数

貸出と異なる請求期間で返却の場合は、次頁で説明する保証料請求区分によって処理が異なります。

◆ 保証日数について つづき

■ 保証日数分の前請求・後請求(保証請求区分)

貸出と異なる請求期間で返却の場合は、得意先登録の「保証請求区分」で、保証日数分の金額をどの段階(出庫時/入庫時)で請求するかが決定されます。保証請求区分は得意先登録で設定します。

出庫時	出庫時の請求(初回請求)にて、保証日数を掛けた金額を請求します
入庫時	返却時の請求にて、足りない場合は保証日数を掛けた金額の残額を請求します。
無効	保証日数の指定は無効です。(0固定)

- 保証日数を登録すると、貸出期間が保証日数未満の場合でも保証日数分の金額を請求できます。

◆ 保証日数について つづき

例) 保証日数=5日。月末締め得意先のケース (数量=3個、日極、単価=100円/日)

レンタル期間	請求区分	8月請求	9月請求	詳細
8/15 ~9/1	(関係なし)	8/15~8/31 (17日間)  請求書 8/15~8/31 3個 17日 5,100円	9/1~9/1(1日間)  請求書 9/1~9/1 3個 1日 300円	[8月] 初月の稼働日数(17日)が保証日数(5日)を超えているので、保証の考慮はなし ⇒ 8月の請求日数: 17日  [9月] 前月で保証日数超えているので、保証の考慮なし ⇒ 9月の請求日数: 1日
8/30 ~9/1	出庫時 の場合	8/30~8/31(2日間)  請求書 8/30~8/31 3個 保証5日 1,500円  追加請求済日数 = 5日 - 2日 = 3日	9/1~9/1(1日間)  請求書 (なし)  前月で全額請求済のため、請求なし	[8月] 出庫時請求: 稼働日数(2日) < 保証日数(5日) なので保証日数で初月請求 ⇒ 8月の請求日数: 5日  [9月] 前月の追加請求済日数を計算する 9月の稼働日数(1日) < 追加請求済日数(3日) なので次月請求なし 追加請求済日数: 3日 ⇒ 9月の請求日数: 0日
	入庫時 の場合	8/30~8/31 3個 2日 600円  保証残日数 = 5日 - 2日 = 3日	9/1~9/1 3個 保証3日 900円  請求済みの2日間を保証日数5日からマイナス	[8月] 入庫時請求: 初月は稼働日数分を請求 ⇒ 8月の請求日数: 2日  [9月] 前月の保証残日数を計算する 9月の稼働日数(1日) < 保証残日数(3日) なので保証残日数分を請求 ⇒ 9月の請求日数: 3日 (保証日数 - 請求済日数)
8/30 ~9/16	出庫時 の場合	8/30~8/31(2日間)  請求書 8/30~8/31 3個 保証5日 1,500円  追加請求済日数 = 5日 - 2日 = 3日	9/1~9/16(16日間)  請求書 9/1~9/16 3個 13日 3900円  請求済みの3日間を貸出日数16日からマイナス	[8月] 出庫時請求: 稼働日数(2日) < 保証日数(5日) なので保証日数で初月請求 ⇒ 8月の請求日数: 5日  [9月] 前月の追加請求日数を計算する 追加請求日数(3日) < 9月の稼働日数(16日) なので稼働日数 - 追加請求日数 で請求 追加請求済日数: 3日 ⇒ 9月の請求日数: 13日
	入庫時 の場合	8/30~8/31 3個 2日 600円	9/1~8/16 3個 16日 4800円	[8月] 入庫時請求: 初月は稼働日数分を請求 ⇒ 8月の請求日数: 2日  [9月] 前月の保証残日数を計算する 保証残日数(3日) < 9月の稼働日数(16日) なので稼働日数分を請求 保証残日数: 3日 ⇒ 9月の請求日数: 16日